

1枚作るために必要な材料と製造エネルギーを原油に換算すると、約20.6 mlが必要となります。この計算だと、レジ袋を作るために使われる石油量が狭山市だけでも1年間に約72万ℓにもなるのです。

こうした状況を踏まえ、自治会、消費者団体や事業者の代表など、市民が中心となってごみの減量・資源リサイクル推進に取り組むための組織「狭山市のごみ減量化推進会議」では、身近な生活の中でできるごみ減量化のための具体的な行動として、

平成10年度から狭山市独自にマイバッグキャンペーンを実施し、「お買い物は自分のバッグ持参で」と呼びかけてきました。しかしながら、レジ袋を受け取る消費者への呼び掛けだけで達成できることではなく、レジ袋を提供する商店など事業者の協力が不可欠であることから、市民、事業者、行政それぞれが、さらにもう一歩踏み出した具体的な行動をとっていく施策が必要だという結論に達しました。そこで、昨年3月には狭山市のごみ減量化推進会議に「ノーレジ袋デー」専門部会を設置し、実施への具体的な検討を進めてきました。

マイバッグキャンペーン

全国の都道府県および団体と、日本チェーンストア協会など事業者団体が参加する「ごみ減量化推進国民会議」で毎年10月に実施している全国的キャンペーン「ごみの減量化リサイクルをより一層推進するため、ごみの多くを占める容器包装に着目し、そのシンボリックなレジ袋の削減およびごみ減量意識の啓発を図る」ことを目的としていきます。

部会では消費者や商店の意向調査を実施し、消費者の8割商店の9割がノーレジ袋デーに賛成という回答結果を得て、今年11月2日を「マイバッグ持参デー」と定めました。そして入間川七夕まつりや各地区の夏祭り、運動会でのPR、駅前・店頭キャンペーンを実施してきました。

マイバッグを持って行きましょう

当日は原則としてレジ袋はお渡ししません。が、買い物袋を忘れたかたには提供します。また、スーパーなど大型

皆さんの協力が不可欠です



高橋光義さん
(狭山市のごみ減量化推進会議ノーレジ袋デー専門部会長)

今日では、だれもが環境に関心を持ち、住みよいまち、安心して暮らせるまちを望んでいます。専門部会では、私たち市民が行政に頼るだけでなく、行政のバックアップを受けながら手を取り合って進める手段の一つとして、「ノーレジ袋デー」の実現に向けて取り組んできました。

昔はだれもが買い物かごを持っていました。そしてかごの中には、経木や新聞紙に包まれた魚や野菜などが入っていたと思います。そ

れが紙袋になり、そして現在使われている発泡トレイやレジ袋へと包装の形が変わってきました。このノーレジ袋デーを通じて、昔のように原点に帰った買い物をしませんか。

私たち市民一人一人が狭山市を良くしていく。他の市町村の人たちから、狭山は良いところだね。」と言われるような市にしていきたいと願っています。それには市民皆さんの理解と協力がなくてはなりません。環境への取り組みは、私たちのためだけでなく、これからの狭山を担う子どもたちのためにも必要な事ではないのでしょうか。

「ごみの減量の初めの一歩として、ぜひ11月2日の「ノーレジ袋デー」にご協力ください。」

「明日から...」ではなく、今からぜひ実行してください。

環境に優しい生活を送りましょう

会議では、今回の「ノーレジ袋デー」をきっかけに、今後市民や商店との話し合いを重ね、年1回から半年に1回、月に1回と実施回数を増

11月2日は ノーレジ袋デー



ノーレジ袋デーをどう思いますか？



お店の声 買い物袋持参のお客様にポイントを付けている 袋を有料にしている 袋はただでもらえるものと思っているお客様が多い レジ袋をくれないお店はサービスが悪いというイメージを持たれては困る 少量の買い物でも袋を催促されるため提供しないのは難しい 袋に入れる習慣が定着しているのでお客様に理解してもらうには時間がかかると思う 大型袋はごみ袋に良いとの声が多く、どう説明するかが課題 月1回、各週と実施日を増やしてはどうか クチコミで呼びかける お客様と積極的に話し合う「ご協力ありがとうございます」と一言添えている 荷物が少ない時ば 袋はどうなさいますか」と聞いている 袋の撤廃を積極的に実施している。最初は戸惑いもあったが、お客様にも理解されている 最近は、買い物袋持参やレジ袋をいらないというお客様が多くなっている マイバッグを持参されると万引きにつながる恐れもある レジ袋の節約が定着すれば、その費用を品質向上に生かせる 経費節減になり袋に入れる手間も省ける 買い物袋を持って来てもらうよう、常に声掛けしていけば根づくだろう もっとごみの分別化を徹底させていくなど、ごみ減量・リサイクルを進めてほしい

消費者の声 レジ袋を、ごみ用、学校・幼稚園用、野菜などのおすそ分けなど便利に再使用している 外出や仕事の帰りに買い物をするため買い物袋を持ち歩いていない 年1回では忘れてしまう、月1回、週1回、曜日で、毎日など増やす 当日のレジ袋の提供については忘れた人に柔軟な対応をしてほしい スタンプやポイントカードなど、買い物袋持参者への特典をつけてほしい スタンプ、シールによる返金制では普及しない。辞退したその場でレジ袋経費がいくらになるか分かるような「袋の有料制」かその場の返金が効果的 買い物袋を減らすこと以外に食品トレイなどの過剰包装を減らしたり資源物の分別回収を増やすことが大切だ 「ノーレジ袋デー」も良いとは思いますが、ごみの有料化など市民のごみに対する自己責任の強化や積極的なごみ減量化施策の実施が必要なのではないか なぜレジ袋を減らす必要があるのか



やし、やがて毎日をノーレジ袋デーにしていきたいと考えています。それには、お店のかたはもちろん、市民皆さんの協力が不可欠です。

ノーレジ袋デーが、ごみの減量、貴重な石油資源の節約など、生活習慣を環境に優しいライフスタイルに転換していくきっかけになり、毎日の生活の中で買い物袋を持参するという習慣が、狭山市全体に広がると素晴らしいと思います。11月2日に買い物に行くかたは、必ず買い物袋を持参してください。そして、レジ袋をもらわないことをきっかけに、毎日の買い物スタイルを見直し、簡易包装やリサイクル品詰め替えができる商品を購入したり、牛乳パックや食品トレイなどの店頭回収に協力するという取り組みを行う動きを広げていきましょう。

「ノーレジ袋デー」に関する「ご意見をお待ちしています。」

「ご意見・問い合わせ廃棄物対策課内狭山市のごみ減量化推進会議事務局へ内線361

1.3612